

JR 駅のエレベーターについて



福井 節子議員

問 市内の各駅は高架が高く高齢者や障害者、赤ちゃんを連れたお母さんなど上り下りが大変である。1 日の駅利用客が 5 千人以上でない事を理由に、平成 22 年度までの県の建設予定に入っていないエレベーター実現に向けた整備計画を示してほしい。特例債も視野に、検討委員会の設置をすべきではないか。

答 土木交通部長
「新市建設計画」に湖西線各駅のエレベーター設置は重点項目の



近江今津駅のエレベーター

1 つに掲げられていまずので、設置に向けた調査を行い、県や JR に対し積極的に働きかけて、早期実現に努めていきます。検討委員会も 1 つの方策として考えていきます。

問 安曇川町のふれあいバスは高齢者の方から大変喜ばれ利用されている。自宅から高島病院と町内の病院や公共施設の玄関まで 100 円で送迎してくれ「なくさないで」の声が大きい。全市に広げ利用の促進と充実を図るべきである。市内公共バス料金を 100

円に統一し利用し易く、高齢者や障害者の無料制度を全市に広げ実施すべきではないか。

答 健康福祉部長
ふれあいバスは、公共交通機関の利用制約を受ける高齢者や下肢が不自由な方に限定して運行され、行き先も医療機関や福祉施設等です。この制度を全市に広げることは考えていませんが、他で実施している外出支援サービスの内容、対象者、費用負担を検討し、新たな制度として整備いたします。

旧町村の優れた施策を残し全市に拡大を



栗津 まり議員

問 不況対策、地域経済の活性化、安心で快適な住まいづくりに多大な効果がある住宅リフォーム助成制度の実施をはからりたい。

答 産業経済部長
旧新旭町では町独自の助成をしています。他に、県の耐震改修や介護保険の改修補助があります。どのような制度にするのか現在部内で検討しています。

問 地域の实情に依じてつくってきた優れた施策は合併後も必要。「サービスは高く負担は低く」の約束どおり、これらの施策を今後に残し全市に広げべきである。

答 健康福祉部長
旧町村で個々に実施してきました全ての制度を市全域での実施に向け調整することは難しいですが、必要と考えられるものについては十分検討し、調整を図ります。

問 高齢世帯が増加し、大型ゴミの処分にも自治体の回収は義務付けられており、せめて年 2 回程度の回収は実施できないか。

答 市民環境部長
県内及び先進地の状況をもとに、廃棄物を出来る限り減らすと言う観点から福祉施策も考慮し、有料での回収を前提として前向きに研究してまいります。

問 出生数の減少は市の将来にも深刻な問題。子育て世代を応援し安心して子どもを産み育てられる環境づくりが必要。すでに多くの自治体を実施している就学前まで福祉医療費助成制度拡大をはか

答 健康福祉部長
合併協議会で「福祉医療費助成制度については、県の制度に基づき実施する」との調整内容になっています。

